

## 私の好きな太田大八さんの絵本より

きんだあらんど 蓮岡 修

5月9日より16日まで(13・14日は休み) 児童書店きんだあらんどのお店の中をギャラリーにして 太田大八さんの絵本原画展が開かれます。そこで蓮岡さんに、好きな太田さんの絵本を紹介していただきました。

### 『百合若大臣』(ゆりわかだいじん)

たかしよいち・再話 太田大八・絵 ポプラ社 1260円



蒙古を撃退した立役者である猛将百合若の波乱に満ちた物語。重臣の裏切りによって無人島へ置き去りにされた百合若だが、主人の生存を信じる姫と愛鷹により、希望をすてず生き続ける。

漁師に助けられた百合若、でも体は病み部下もいない。はたしてどうすれば復活できるのか。

まるで絵巻物のように美しい絵です。

今回の展示はこの作品です。

### 『しっぺいたろう』

香山美子 再話 太田大八 絵 教育画劇 1260円

村の社に毎年一人ずつ娘を差し出さねば祟りによって村が荒らされる」と嘆く村人。夜中に社を見張っていると、夜にも恐ろしい姿の3びきの妖怪が出てきた。その妖怪が恐れる「しっぺいたろう」とは…。お店でも読んであげると3人に1人は怖がってかくれるほど、おどろおどろしい絵と設定は、まさに昔話の王道です。



### 『やまなしもぎ』

平野直 再話 太田大八 絵 福音館書店 1260円

いろんな解釈を与えてくれる昔話。3人の兄弟とは、やまんばとは、そして恐ろしい池の主とは、と無意識に語りかけてくる昔話の名作。子どもたちはちゃんと理解しているせいか、食い入るように話を聞いてくれます。



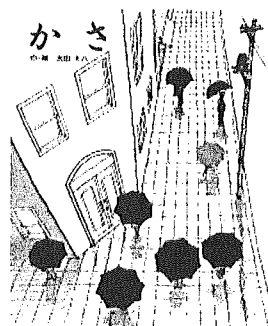
## 雨の季節にちなむ、水や雨につながる絵本と科学読み物の紹介

京庫連個人会員 杉原由紀枝

## ジョイフル絵本傑作集 10 『かさ』

作・絵 太田大八 文研出版 1975

雨の日に傘を持ってお父さんを迎えに行く女の子のようすを、足取りをたどりながら、周りの風景を含めてちょっと遠めに見たり間近で見たり視点を変えて描いています。文字は全くなく、モノクロームの風景に女の子の傘だけが赤く描かれていて、初めて目にしたとき、その斬新さに目を見張りました。今回のコーナーを担当するに当たって、一番に思い出したのはこの本でした。20数年前、娘がまだ小さかった頃、膝の上に乗せて一緒にページをめくりながらいろいろおしゃべりし合ったひと時がなつかしく思い起こされます。



## 『あめのもりのおくりもの』

ふくざわゆみこ 福音館書店 2006

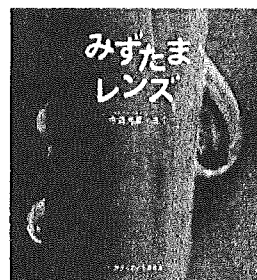
嵐の日にクマさんをたずねてきたヤマネくんは、「なないろだにのまんかいのあじさいを見に行こう。」と誘いますが、雷が怖いくまさんは外に出ようとしません。ヤマネくんが一人で出かけた後、たいへんなことがおこります。ハラハラドキドキの展開の中にクマさんとヤマネくんのお互いを思いやる気持ちがほのぼのと伝わってくるすてきな絵本です。



## 『かがくのとも傑作選 みずたまレンズ』

今森光彦 福音館書店 2008

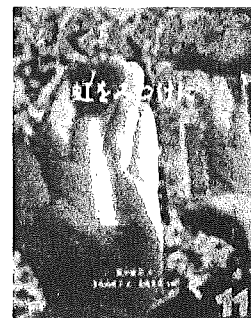
作者の今森さんは、「虫たちにとって、小さな水滴はどのように見えるでしょうか。そんな思いをいだきながら撮影したのがこの本です。私は、水玉を撮るようになってから、きれいだった雨の日は、とても好きになりました。」と書いています。みずたまレンズを通して目にする不思議な世界はきっと あなたをくぎづけにするはず。



## 『月刊 たくさんのふしぎ 虹をみつけた』2005年11月号(第248号)

岡戸敏幸 文, 和田真理子 絵, 松岡芳英 写真 福音館書店

雨上がりの空に大きな虹を見つけたときの喜びは格別です。それにしても、なぜ「虹」という漢字は虫編なのでしょうか？ 実は、数千年前の中国の、「虹は龍のなかまである」という伝説と関係があるのです。この本はそんな導入からはじまって、日本だけでなく世界の各地でどのように虹がとらえられ、描かれてきたのかを紹介しています。そして、虹の輝きは、思いもかけぬものの中にも見出され驚かされます。残念なのは、バックナンバー一本が手に入りにくいことです。



梅雨の明ける前のちょっと雨の日、夏がやってくるのが楽しみになりそうな絵本です。

風の子文庫 佐野満子

我が家の娘達の幼稚園時代（20年くらい前）にお気に入り（図書館の書庫入り）

「プッポコとペッココ ねむりかいじゅうネーボーのまき」

福音館書店 こどものとも

作：岸田衿子 絵：片山健



いがぐり頭のプッポコの上にペッココを乗せて、ひょうたんラップを吹きながら仲間のいぬお、うさえ、さ・る を誘いやってきた洞穴は、眠くなる空気があり、のろのろ進んでいくと、目を覚ましたむかで、こうもり、くもに出会い、プッポコペー・ペッコッピーと吹きながら行進していくと、ひやくじゅういちねん眠っていたネーボーに会い、起こしてみんなそろって洞穴をぬけると、お日様くるくるいい天気、水しぼぎ上げて泳ぎだす。

去年、見つけた写真絵本

「からだがかゆい」

作：岩合日出子 写真：岩合光昭 福音館書店

ペンギン、らいおん、きりんなどそれぞれの体をよじってかゆそうにしている姿が、11種登場します。見ていると、野生動物の体の柔軟さに驚き、ポーズのおもしろさにはまってしまう。みているほうもどこかがかゆくなくなるかも。



風の子文庫で見つけた

「あめがふるときちょうはどこへ」

文：M・ゲアリック 絵：L・ワイスガード

訳：岡部うた子 金の星社

グレー系のやさしい色使いの本を開くと、まるで雨の中をちょうちょうといっしょに虫や小鳥、動物、魚、いろいろな生き物の様子を眺めて穏やかに散歩している気分になり、読み終えたら雨のやんだ後のすっきりした空が見えそうです。

## 後藤竜二さんの絵本です。

### 『おかあさん、げんきですか。』

竹田美穂・絵 ポプラ社

母の日に、ぼくは思い切って手紙を書きました。おかあさん、しつこく「わかった？」ってきかないで！「ぼく」、「おかあさん」、どっちの立場からでも、読んで納得の楽しい本です。



### 『1ねん1くみ1ばんワル』

長谷川知子・絵 ポプラ社

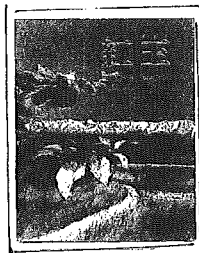
1ねん1くみには元気のよすぎる子がいます。名前はくろさわくん。ようちえんのころからぼうそうぞく？くろさわくんってほんとにワル？

### 『りんごの花』

長谷川知子・絵 新日本出版社

りんご農家の子どもたちの伸び伸びした暮らし、家族愛を描いた自伝的作品です。

きびしい冬が過ぎ、春に咲くりんごの花がきれいです。



### 『紅玉』

高田三郎・絵 新日本出版社

北海道美唄市は、かつて炭坑地帯として有名でした。そこには戦時中強制連行されてきた朝鮮や中国の人々が過酷な労働を強いられていました。

歴史的事実を忘れて欲しくないと、父親からの口伝を兄高田三郎と創った一冊です。

### 『おまつり村』

岡野和・え ポプラ社

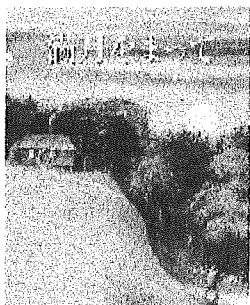
江戸時代から明治になる頃、日本の国のあちこちで世直し一揆がおこっていました。みんなのものだった山を、お上に取り上げられた村人は、山を返してほしいと張り合ったが敗れました。けれど、北海道に渡り原生林を開拓し、新しい自分たちの村を作りました。

歴史の中に脈々と流れる民衆の力を描き出しています。



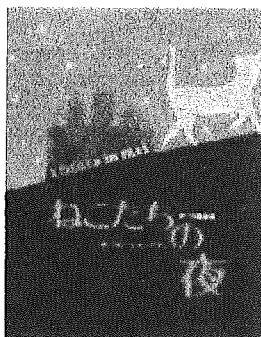
## 夜・月

秋の夜長、たまにはお月さまを見ながら読んでみてください。楽しい絵本、しっとり絵本、



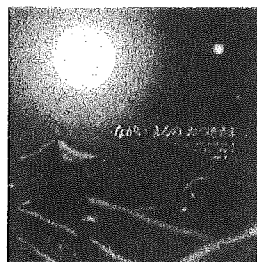
『満月をまって』メアリー・リン・レイ文 バーバラ・クーニー絵 掛川恭子訳 (あすなろ書房) 2000

100年前のお話です。満月になると父さんは1年かけて作った籠を売りに町へ行く。母さんといつも留守番のぼく。9歳になって満月が来た時、やっと父さんは一緒にきていいと言ってくれた。待ちに待った日。けれど、その後ぼくは町へは行きたくなくなった。そして…。静かな落ち着いた絵の中で、子どもの心情がうまく表現されています。



『ねこたちの夜』ブルース・イングマン作 江國香織訳 (小学館) 2001

「まいばん、ぼくはきみがねむるのをまって こっそりぬけだす。」こんな文章で始まる絵本。一体、猫たちは夜中に何をしているのでしょうか。ページをめくるたびにニタッと笑いたくなる絵。猫たちが通っているのは、キャット・アカデミー。いやはや、人間の世界といっしょですね。



『ながいよるのおつきさま』シンシア・ライラント作 マーク・シーゲル絵 渡辺 葉訳 (講談社) 2006

1年12カ月、アメリカ原住民は毎月の満月に一つ一つ名前を付けた。1月は嵐のお月さま、2月は雪のお月さま、6月はイチゴのお月さま、3月は夜露のお月さま。12月は長い夜のお月さま…。暗闇の世界を照らす満月の下、生き物の夜の世界が浮かぶ。



『まんげつダンス!』パット・ハッチンス作・絵 なががわちひろ訳 (福音館) 2008

ハッチンスのおなじみのカラフルな絵。満月の夜は踊っていたいと、ウマ、ブタ、ヒツジさんたちは、子ども達が寝ている間に飛んだり跳ねたり。すっかり疲れて眠りにつくと、今度は子ども達が踊りだしました。一緒に踊りたくなるような、楽しさが伝わってきます。

(池村奈津子)

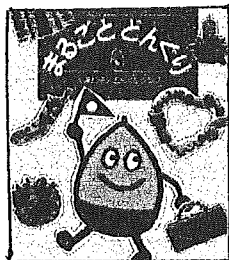
魅了されます。雄大な自然の中で、堂々と生きているクマの姿に感動と敬意を覚えます。著者とクマの鼓動が聞こえそうです。

『クマよ』 星野道夫 文・写真 福音館書店



『たのしい ふゆごもり』  
片山令子作 片山健絵  
福音館書店

おはなしの中のクマはいつもとても可愛くて、子グマはいつもやさしいお母さんに守られて幸せです。読んでもらった子どもたちは、「クマさんのおうちもぼくのうちと同じ」と思って嬉しくなります。



ドングリ工作の楽しさの半分はドングリ拾い。たくさん集めたら、作って、食べて、まるごと一冊あらゆるどんぐり遊びが楽しめます。

『まるごとどんぐり』  
大滝玲子・どんぐりクラブ  
草土文化

豊かな自然の森には木の実がいっぱいで、クマはお腹いっぱい食べて、ゆっくり冬眠することができますが、今、日本では雑木の森が減り、猛暑で木の実が減り、里では熊避けに柿の木を切ってしまうたりして、クマは本当にかわいそうなことになっています。絶滅の危機なのに、今年はまだ 2000 頭以上も殺されています。クマが生きられない環境で、人だけが生き続けられるでしょうか。

日本熊森協会というところでは、くまが冬眠できるようにドングリを集めて森に届けています。公園や学校でたくさんドングリを拾ったら、森のクマさんのことも考えてみて下さい。

(西谷典子)



日本熊森協会 本部 Tel 0798-22-4190

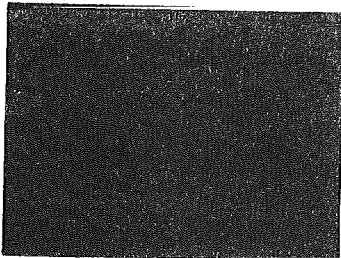
<http://kumamori.org/>



『黒ねこのおきやくさま』

ルース・エインズワース 作 荒このみ 訳  
山内ふじえ 絵 福音館書店

貧しいおじいさんの家にとびこんできたやせた黒ねこ。  
おじいさんは一週間に一度のごちそうをすべて黒ねこにあげ、  
暖炉にくべるまきも黒ねこのために使ってしまいます。  
おじいさんと黒ねこのやりとりがおもしろく、こころが温か  
くなります。



※ 赤い表紙です

『ちいさなろば』

ルース・エインズワース 作 石井桃子 訳  
酒井 信義 画 福音館書店

いつもひとりぼっちのちいさな ろば。女の子から、サンタ  
クロースの話を受けます。その夜、サンタクロースからそりを  
引くのを助けてほしいと頼まれたろばは喜んで手伝います。  
仕事をおえたろばにサンタクロースがプレゼントは何がいい  
かと聞くと…。



『エゾオオカミ物語』

あべ弘士 講談社

シマフクロウが絶滅したエゾオオカミのことを静かに語り  
ます。なぜエゾオオカミは絶滅したのか。増えつづけ人里を荒  
らすがゆえに悪者になっているエゾシカ。その本当の理由は…。  
動物と人間のかかわりについて考えさせられる本です。



『大雪』

ゼリーナ・ヘンツ 文 生野幸吉 訳  
アロイス・カリジェ 絵 岩波書店

そりの飾りを手に入れるためふもとの村へいったフルリー  
ナ。なかなか帰らない妹が心配になったウルスリは雪の中を  
迎えに行きます。

雪山の怖さと自然の強さが伝わってきます。

あけましておめでとうございます。今年は“うさぎ年”ですね。

“ウサギはさいしょのおともだち”（あべ弘士『どうぶつえんガイド』より）といわれるようにうさぎは、子どもたちにとってとても親しみやすい動物です。うさぎの絵本で最初に思いつくのは、ディック・ブルーナのミッフィー（講談社）やうさこちゃん（福音館書店）シリーズかもしれませんが、日本にも子どもたちが最初に出会う絵本・ロングセラーの絵本がたくさんあります。



『おさじさん』（松谷みよ子あかちゃんの本）

松谷みよ子 作 東光寺 啓 絵 童心社

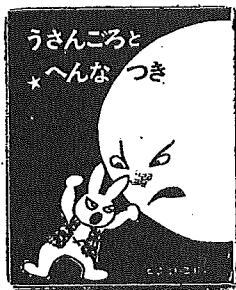
～おくちの トンネル アアーンと あいて～  
子どもたちに離乳食を食べさせる時よく使いました。  
文章のリズムが心地よく楽しめます。



『わたしのワンピース』

にしまき かやこ 絵・文 こぐま社

～わたしのワンピースをつくろうと～ミシンカタカタ～  
ラララン ロロロン わたしに にあうかしら～  
おはなばたけを さんぼするの だいすき  
うさぎのワンピースがいろんな模様のワンピースになっていきます。  
この絵本もリズムカルで女の子が大好きです。



『うさんごろ とへんなつき』

せな けいこ 作・絵 PHP 研究所

こんやは じゅうごや うさぎたちの おまつり  
ところが、へんなおつきさまがあらわれ・・・  
他にも『おばけのてんぶら』（ポプラ社）・『うさぎのまじっく』  
（すずき出版）など、せなさんの作品には、やんちゃなうさぎが  
たくさん登場します。



『どうぞのいす』

香山美子 作 柿本幸造 絵 ひさかたチャイルド

うさぎさんが、いすをつくりました。“どうぞのいす”とかいた  
たてふだとともに、のはらの大きな木のしたにおきました。  
あるひ、ろばさんがやってきて・・・  
人形劇やペープサートにもしやすく30年愛され続けている  
ロングセラー絵本です。



『ふうとはなとうし』

いわむらかずお 童心社

子うさぎの兄弟が主人公の「ふうとはなの絵本シリーズ」一冊目。  
ふうとはながいろんな動物と出会い、自分とのちがいにおどろいた  
り感動したり、命の温かさが伝わってきます。

うさぎのおみくじがかわいい、うさぎ神社としても有名な岡崎神社（左京区岡崎東天王町51）  
に初詣に行ってきました。今年も元気に飛び回りましょう！

島谷千織（たなばた文庫）



2月22日はにゃんにゃんの日。今回はねこが主人公の本をご紹介します。  
忠犬という言葉はあっても、忠ねこという言葉は聞きませんが、ねこだって十分  
つくしてくれているのです。



“ねこ”の根本的な存在理由=いるだけで可愛いがよく分かる本。

『ねこねこねこ』 ブルノー=ホルスト=ブルぶん  
ヤーヌン=グラビアンスキーエ  
まえかわやすお やく  
偕成社 1969



拾ってくれた恩にむくいるために、修行に励むこねこの気迫。

『八方にらみねこ』 武田英子・文  
清水耕蔵・絵  
講談社 2003



1421年にオランダで起きた洪水の中をねこと赤ん坊が生き延びた  
という実話をもとにしている。

『風車小屋ねこカッチェ』文/グレッツェン・ウェルフレ  
絵/ニコラ・ベイリー  
訳/今江祥智&遠藤育枝  
BL出版 2002



1月11日はわんわんの日なのに、犬の本をとりあげなかったおわび  
に、犬とねこが協力して恩返しをするおはなしを。

『てのひらむかしばなし うろこだま』 長谷川撰子・え  
下田昌克・絵  
岩波書店 2004

## 文字のない絵本

にじのこ文庫 三上啓子

いよいよ文字のない絵本の出番です。『どうぶつのおやこ』 蕨内正幸、『はるにれ』 姉崎一馬 (福音館書店)、『木のうた』『りんごとちょう』 イエラ・マリ (ほるぷ出版)、『あめ雨』 ピーター・スピア (評論社)、他にも楽しい作品があります。子どもたちは文字のない絵本から豊かな言葉を読みとり、物語を紡ぐことでしょう。では2000年以降に出版された作品から紹介します。



- ①『マットくんの きょうりゅうだ!』  
さくピーター・シス BL出版 01  
おもちゃの恐竜を持ってお風呂に入ったマットくんの前に、つぎつぎときょうりゅうが…。

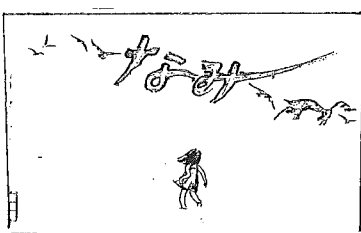
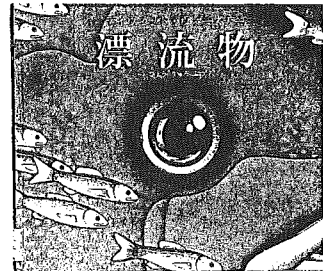
- ②ものがたりさがし絵本 『さがしてあそぼう春ものがたり』  
ロートラウト・スサンネ・ベルナー作 ひくまの出版 05  
春の陽気に誘われて子どもからお年寄り、犬や猫まで出かけます。頁をくる毎に探す楽しさが広がります。



- ③『ことり』新宮晋 文化出版局 07  
早春、シジュウカラが木の洞に巣作りをする。  
雄雌が仲良く育てたヒナの成長と巣立ちまでを美しく描く。

- ④『漂流物』 作 ディヴィッド・ウィズナー  
BL出版 07

浜辺に流れ着いたカメラに写り込んでいたのは不思議な海の底の風景、異国の少女、そして少女の持つ写真に写っているのは…。



- ⑤『なみ』 スージー・リー 講談社 09  
少女が母親と浜辺に遊びに来た。波とたわむれる少女とカモメ。やがてはしやぐ少女をおそう大波…。青と黒の2色で描かれた絵本。